



すすんで学ぶ
心豊かな子
たくましい子

中宮

令和4年7月20日
第637号
枚方市立中宮小学校
校長 池原 義人



夏休み、元気なみなさんを待っています

前年度より一歩前進の学期でした

本校校長として、2回目の1学期を終えます。入学式は前年度と同様に新入生と保護者・教職員だけの式典でした。本年度もこのまま子ども達の楽しみが奪われていくのかと心配しましたが、全学年校外学習を実施することができました。また、水泳の授業も回数は少ないですが実施することができました。2学期も、修学旅行や遠足、運動会などがコロナに影響されることなく実施でき、子ども達の笑顔や頑張りをはじける学期にしていきたいです。ご協力よろしくお願い致します。

心配は前年度と同じですが、こちらは一歩前進を!

夏休みを迎えると毎年同じ心配が頭をよぎります。それは、1学期の間に積み重ねてきた学習習慣や生活習慣が、夏休みで一掃されてしまうことです。もちろんすべての児童ではありませんが、夏休み明け、登校できない児童が必ず出てきます。

それまで遅い時間の起床を許されていたのに、いきなり早い時間に起きなさいと言われても、できあがっていない幼い心には苦痛以外の何ものでもありません。数分、数十分の学習しかしらない毎日を過ごしているところから、1日何時間もの授業をしっかりと受けなさいということも同様です。学習習慣も生活習慣も、できる限り変化の少ない毎日へ導いてあげることが得策だと思います。夏休み明けの子どもを想像して、この36日間をリードしてあげてください。

現地の夏休みを利用して、マダガスカル共和国から一時帰国した元同僚と、食事をともにする機会がありました。教育レベルの向上を目的にマダガスカルに派遣され、現地の子どもたちの教育に携わっている友人です。日本から見ると貧しい国のマダガスカルですが、地域によって生活レベルの差があるそうです。友人が滞在している村は、その中でも貧しい地域らしく、子ども達はみんな裸足、ほとんどの家には水道も電気も通っていません。

レベルが低いと言われている授業について聞くと、話し合ったり教え合ったりすることはなく、教師が一方的に授業を進めているそうです。なのに、進級を判定するテストがあり、基準に達しない子どもは留年します。体罰もあり、子どもが頬を叩かれている姿を見るのがとても辛いと言っていました。

友人は日本の学校にいたときから、これでもかというくらい子どもを褒める先生でした。そして、子ども達から慕われ信頼され、落ち着いたクラスができあがっていく、そんな担任でした。向こうでも子ども達を褒めまくっているそうですが、その姿に影響された現地の教師たちが、子ども達をよく褒めるようになったと喜んでいました。

そんな教育レベルの低い(日本の基準で見ると)ところですが、子ども達はよく手を挙げ発言しようとするなど、とても意欲的に学習するそうです。鉛筆はなくボールペンで文字を書きますが、ノートはありません。わずかに与えられた紙を無駄にしないため、小さな小さな細かい字を書いて勉強します。



与えられたタブレットを粗末に扱って修理を依頼したり、充電を怠ってタブレットをただの重たい荷物にしたりしている児童に、「マダガスカルの子たちを見習いなさい」なんて言うと、昭和のおっさんと言われてしまうのでしょうか?でも、この大きな違いを知ってほしいなと思います。

たくさんの家族で暮らしている家が多いそうですが、どの家族もととも仲がよく、子ども達も小さな弟や妹をかわいがって面倒を見ている。大人も子どもも貧困に対する悲壮感などなく、みんな幸せそうだとのこと。

長期休暇が明けそうになると憂鬱になる昭和のおっさんも令和の小学生たちも、これは見習わなければなりませんね。



遅すぎる後悔

もうすぐ23歳になる娘が中学1年生のときに、スマホを買い与えてしまいました。1学期の成績が良好であったことが嬉しくて、娘の要望に答えてしまう甘い父親になってしまいました。もちろん、そこからの成績は一向に上がりませんでした。あのときスマホを買い与えていなければ、ひょっとして高校も大学も、そして就職も行き先が変わっていたのではないかと後悔しています。

今は25歳になった息子を、6年生1学期終業式の日につつく叱りました。もちろん持って帰ってきたあゆみを見てのことです。ひどい成績にがっかりしながら、その怒りを吐き出すように叱ったと思います。ただ、夏休みの間中ひきずるほどの持久力もなく、反省して勉強しなさいとその場は終わりました。その後は、親子ともどもあゆみのことは忘れてしまい、いつも通り、のんきな夏休みを過ごしました。

夏休みが明け、2学期の中ごろに配布された学級指導についての保護者説明会案内で、息子のクラスが学級崩壊していたことを知りました。担任に反抗的な一部の児童の指導で、授業どころではなかったそうです。息子に確認すると「そいつらだけのことやから、勉強はちゃんとできていた」ということなので、成績不良との因果関係はなかったのだと思います。

どちらも我が子のことであり、自分自身のことを振り返ると、成績不良は十分納得できることです。言い訳を外に見つけようとしているだけなのかも知れません。

しかし、親としてやるべきことは成績表の数字だけを見るのではなく、子どもの将来をしっかり見てやることでした。結果だけを見て叱りつけたり対価を与えたりすることではなかったという、遅すぎる後悔は今でも心の傷みです。

個人懇談会ありがとうございました

7月4日(月)から7月8日(金)の5日間、個人懇談を行いました。10分から15分程度の短い時間だったと思いますが、有意義な時間となりましたでしょうか。保護者と共有した内容を子ども達の成長につなげてまいります。お忙しい中、本当にありがとうございました。

また、本年度も授業参観はオンラインだったので、これが最初の来校になった保護者もいらっしゃるのではないのでしょうか。なんとか1学期を終了することができましたが、学期後半にはコロナ感染児童がじりじり増加していました。枚方市内でも、学級閉鎖に追い込まれた小学校があったようです。2学期以降も安易な判断に陥ることのないようにして、子ども達の安全安心を最重点としながら学校運営を進めてまいります。

ご理解のほどよろしくお願い致します。

